

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571900218		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホーム たちばな	ユニット名	たちばな1号館
所在地	宮崎県宮崎市高岡町内山2407番地3		
自己評価作成日	平成22年10月17日	評価結果市町村受理日	平成23年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4571900218&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホームたちばなの理念以外に各ユニットの理念を作り、それぞれのケアに活かしている。
 ・園内外研修、定例研修会等の内容の充実を図り、職員の質向上に取り組んでいる。(毎年、消防士の指導の下、救急法の実技指導等)
 ・併設施設、病院との合同夏祭りは盛大で、多くの地域住民や利用者の御家族が訪れ、利用者共々楽しまれている。
 ・家族との関わりを力を入れている。(ふれあい昼食会、ふれあいレク、ふれあい遠足等)
 ・季節ごとの行事を織り込み、また、季節ごとに花や菜園での野菜づくり等で利用者の方々に季節感を味わってもらっている。
 ・犬、金魚、めだか等のふれあいで(アニマルセラピー)、日々和やかに過ごしてもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内研修や外部研修を積極的に取り入れ、職員教育に力を注ぎ、ケアの質の向上につなげている。代表者、管理者、各ユニットの主任、副主任、職員の立場で業務改善に向けた話し合いがなされることで、職員も働きやすく、仕事をしていく上でのアイデアや工夫が取り入れられ、利用者へのより良いケアにつなげている。
 運営推進会議や夜間ケアカンファレンスに家族の参加を依頼したことで、家族からの要望や意見が増え、改善に向けた取組につながっている。家族と利用者が食卓を囲みホームの食事を食べる機会を作ったり、家族と職員が消防署の指導で救急法を学ぶ機会を作り、家族と共にホームを作り上げる工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・食堂等5ヶ所に1号館の理念が掲示してあり、毎朝職員で唱和し実践に活かしている。		グループホーム全体の理念があり、更に各ユニットごとにも理念が作られている。朝礼時やミーティング時に唱和し、理念に沿ったケアに近づけるにはどう心がければよいか話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り・運動会・敬老会・奉仕作業で地域住民の方との交流を行っている。		法人が主体として行う行事で、地域住民との交流や地区の園児や学生との交流があり、地域とのつながりを大切にしている。職員は、キャラバンメイトとして地域に出向き、認知症の理解を説明している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括と協力しながらキャラバンメイトで参加している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に行っており、月1回の定例研修会で管理者から報告を受けている。		運営推進会議に家族の参加が増えたことで、家族からの要望や意見が増え、改善に向けた取組につながっている。各委員の助言も活発で、ホームに対して家族からの協力・理解が得られてきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター等と連絡を取り合い、高岡地区ネットワーク会議に出席し、日々のケアに活かしている。		管理者は、市担当者と運営上の報告や課題等について、気軽に相談できる関係を築いている。市が主催するケアプランの研修にも積極的に取り組み、更に深く理解するため指導してもらうなど、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。		法人内研修や外部研修、ユニット会議で、身体拘束に対し、学び話し合う機会がある。施錠をしないことはもちろん、徘徊する方に対しても、その方の思いを引き出し、その人らしい生活につなげるため、制止するケアは行わないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学ぶ機会があり虐待防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会があり、必要な方には活用できるようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類に目を通して、不安や疑問がないか尋ねながら十分な説明を行い、理解・納得してもらっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月毎の運営推進会議で意見を聞く機会がある。		年に1回の法人の機関誌や年に2回のホーム便りを発行し、ケアの取組状況を伝えている。毎月、利用者の生活状況を伝え、運営推進会議や家族参加の夜間カンファレンスなどで意見を引き出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例研修会で意見交換を行っている。又、年2回人事考課の面談で意見を聞く機会がある。		管理者、各ユニットの主任、副主任、職員がそれぞれの立場で話し合う機会があり、その結果を代表者は聞く機会がある。年に2回の人事考課の際、職員ごとの資格取得に向けた話し合いも行い、意識を高める工夫も取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意欲・向上心を持って働けるよう環境条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画が立ててありそれぞれ研修に参加している。報告書を回覧し又、定例研修会でも報告し充実を図っている。人事考課制度により管理者が一人ひとりと面談を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G・Hブロック研修会等で同業者と交流する機会があり、意見交換等を行いケアの質の向上につなげている。			

自己 外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴え、要望等を傾聴し本人が安心して過ごせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を聞きながら信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要とするサービスを見極め、連絡・調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の過去の職業経験を引き出しながら、尊厳の気持ちを持って共に生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密に取り合い、信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との馴染みの関係が途切れない様に面会時等、呼びかけている。	関係の深かった場所や人間関係を引き出す努力はしているものの、訴えの少ない利用者や身体レベルが低下した利用者に対して十分引き出せていない。	利用者一人ひとりに生活歴があり、そこには友人、知人、大切な場所があるので、その関係を断ち切らない支援を期待したい。今まで以上に引き出す仕組みを検討してほしい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話の時間を大事にし、見守り支え合っていけるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からのTEL・相談等がある時には必要に応じて受けている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発する言葉や行動等希望、意向の把握に努めている。		理念である「寄り添ったケアの実現」を目標に、利用者の言葉やしぐさで思いをくみ取れるよう意識した観察をしている。特に、夜間や入浴時など、ゆっくり寄り添える時間帯に、思いを引き出せるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・馴染みの環境等を把握し、ケアにつなげるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの様子・状態をケースに記録している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を聞き、利用者主体のプラン作成に努めている。		毎月のモニタリングを行い、3か月ごとのケアプランの見直しを行っている。見直しの際には、夜間カンファレンスに家族も参加してもらうことで、家族からも要望や意見が出始め、個別ケアにつながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・ケースに日々の様子やサービスを実施しての結果等を記入しプランの見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、柔軟な対応を心掛けている。			

宮崎県宮崎市高岡町 グループホームたちばな（１号館）

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや消防等の協力があり、家族も喜ばれている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望を大切にし、希望の病院で定期的に受診している。		利用者のほとんどは併設病院が掛かりつけ医になっているが、家族アンケートを行い、医療に対しての不安や不満、受診頻度、満足度などの情報をとり、より家族と病院、ホームが協力し合える体制作りを目指している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護師と相談しながらG・Hでの対応を行い、デイサービスの看護師に相談したり協力を得ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院は、病院関係者と情報交換をとっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時に本人の状態報告を行い、何時何があるか分からない事を伝え、家族の意見をまとめておくようお願いしている。		重度化や終末期ケアに対しては、ケア可能な段階まで対応し、関係機関につないでいくという方向である。常に、「利用者がホームで長く生活できるためには」、「家族や利用者の思いは」という視点で考える努力をしている。そのつど、家族を含めた具体的な話し合いは行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防士の指導の下で、心肺蘇生法・AEDの使い方の講習を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を行っている。		消防署が参加する避難訓練や毎月の自主訓練を行っている。家族からの夜間の災害時への不安に対し、家族と一緒に救急法の勉強を計画し、家族にホームの取り組みを理解してもらい、安心につなげている。	

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや浴室を使用する時にはカーテンをしたり、本人の気分を損ねない言葉の掛け方、対応に配慮している。		利用者の尊厳を大切に言葉かけや、気遣いのあるケアがさりげなくできるよう、常日ごろから管理者は職員に伝えている。法人内研修やホーム内研修で学び、話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を引き出すような聴き方、関わりをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた対応を心掛けているが、場合によっては本人の希望に添えない事もある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	敬老会・クリスマス会等の行事には、化粧をする等しておしゃれを支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル・お盆拭き等の役割があり、それぞれ本人にできることをしてもらい、楽しみを作るよう心掛けている。		庭で栽培した野菜を利用者と収穫し、食卓にのせ、共に実りを味わい楽しむ支援をしている。簡単な調理や後かたづけなども職員と共に行っている。家族と同じものを食べる機会も計画し、家族からも好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じて、量・形態を考慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。義歯がなく嗽が困難な利用者は、ガーゼで残渣物を除去し清潔保持に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、時間を見てトイレ誘導している。できるだけオムツを使用せず、布パンツで過ごすようにしている。		利用者ごとの排泄パターンを把握し、個別に誘導し自立につなげている。排便に関しても、気長に支援したことで自立した利用者もあり、利用者の自信につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす時間を作っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのペースに合わせて、会話を持ちながら入浴を楽しんで行えるように支援している。		入浴は週に2回～3回、利用者の希望に応じ支援している。入浴拒否や体調によっては、清拭や足浴を実施し、爽快感を感じてもらおうようにしている。車いすレベルの方も、ゆっくり浴槽に入れるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して心地良く入眠出来るよう、声掛けに配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースに薬の説明書が綴じてある。誤薬を防ぐ為薬袋に赤、黒線で色別している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ等の役割や散歩等の楽しみを持って生活できるよう気分転換等の支援をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	水汲みにシャトルに行く時には外出に誘い、本人の希望に沿って支援している。		病院受診時や法人施設内の外出はできるだけ利用者に声を掛け支援している。月に1回は、外出を楽しんでもらえるように支援しているが、外出の希望が少ない利用者や身体レベルの低下した利用者への支援が少なくなってきた。	短時間でも戸外に出る機会を作り、利用者一人ひとりの希望に応じた外出の支援ができるよう、家族の協力も得ながら取り組んでほしい。

自己	外部	項 目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物は担当職員が購入したり、家族が持参している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者自ら電話をかけたりする事はない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が漂う作品を壁に飾り、居心地の良い環境、空間づくりに努めている。		それぞれのホームで特徴ある取組をしている。季節感を感じられる作品が掲示されていたり、小魚を育てほっとする場を提供したりと居心地のよい空間作りに努めている。家族の方が撮影した利用者のにこやかな写真に、職員からのコメントが書いて居室前にはってあり、温かさが感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人のペースで自由にゆったりとした空間の中、居心地よく過ごせるよう配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こたつや使い慣れた馴染みの物や本人が必要な物を置き、生活空間を大事にしている。		なじみのものを生かして、その人らしく暮らせるように家族に働きかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人に出来る事はしてもらい、持っている力を引き出せるような関わりをしている。			